

消毒用アルコールの安全な取扱いについて

新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、手指の消毒等のため、消毒用アルコールを使用する機会が増えています。一般に消毒用アルコールの物性として、次の特徴があります。

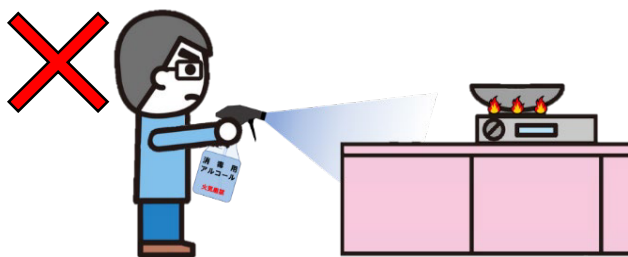
アルコールの火災予防上の特徴

- 火気に近づけると引火しやすい。
- アルコールから発生する可燃性蒸気は、空気より重く、低いところにたまりやすい。

このため、ご家庭や事業所などにおいて、消毒用アルコールを使用する場合、下記に示す火災予防上の一般的な注意事項に十分注意の上、安全に取り扱ってください。

⚠ 火災予防上の一般的な注意事項 ⚠

- ☆ 消毒用アルコールを使用するときは、火気の近くで使用しないようにしましょう。



- ☆ 消毒用アルコールを容器に詰め替える場合は、漏れ、あふれ又は飛散しないよう注意しましょう。また、詰め替えた容器に“消毒用アルコール”や“火気厳禁”などの注意事項を記載してください。



- ☆ 消毒用アルコールの容器を設置・保管する場所は、直射日光が当たる場所や高温となる場所は避けましょう。



- ☆ 消毒用アルコールの容器を落下させたり、衝撃を与えることのないように気をつけてください。



- ☆ 室内の消毒や消毒用アルコールの容器詰め替えなどにより、アルコールの可燃性蒸気が滞留するおそれがある場合には、通気性の良い場所や換気が行われている場所で行いましょう。また、密閉した室内で多量の消毒用アルコールの噴霧を行うことはさげましょう。



消毒用アルコールを携帯するときも注意が必要

- 消毒用アルコールは、携帯容器に詰め替えても火災危険性は変わりません。
- 高温となる車内には絶対に置かないでください。

小さく詰め替えても火災危険性は存在します

車内放置は危険です

本市にて消毒用アルコールの引火実験を行いました

○実験 1

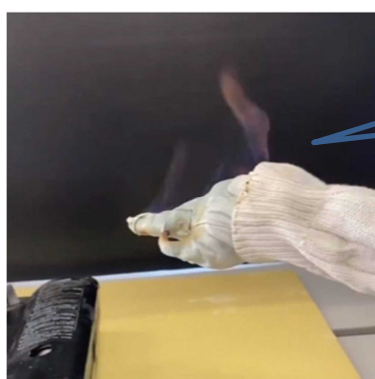
机に消毒用アルコールを吹き付けた後、ライター火を近づけてみる。



着火しました

○実験 2

手指を消毒用アルコールで消毒した後、濡れたままコンロ火に近づけてみる。



着火しました

消毒用アルコールは安全に取り扱ってください。

この実験の動画は「金沢市消防局【公式】インスタグラム」でも紹介しています。